

入学テストは落とすためにやっているわけです。ですからもしみんなが練習していて、全員ができれば、何の意味もないわけです。面接だけで入れるところとか、行動観察をして入学させる学校もあるようですが、そういう観点で選ぶほうがずっといいと私は思っているのです。

とくに大学の付属校は、いねば実験校です。いろいろな子どもがいていいと思うのです。ですから、訓練の結果の知識でテストして、選抜しても意味がありません。何の能力も表してはいないのです。子どもの持つ根気とかヤル気、勇気、覇気などは、ペーパーテストでは測れません。ただ単にそのテストにおいていい成績が出たことにすぎないのです。

テスト問題に引っ掛からなかった子どもが優秀などということはありません。それよりむしろ子どもに自由なことをさせておいて、それを試験官が採点するようなやり方がいいと思います。

子どもの自発的な能力を試すことができます。しかしこれには学校側の対応も必要です。

というのは、学校も教えやすい、忠実な子どもだけを欲しがるといえる傾向があるからです。たしかに先生にとっては楽でしょう。しかし教育の場は

先生が楽をするところではなくて、子どもの才能を伸ばすところです。先生は苦勞しなければいけません。こういう意味で言いますと、今の学校教育は個性を潰すようなやり方です。個性を潰されないほど強い子どもならいいのですか、何といても学校は画一的すぎます。だいたい試験のために勉強すること自体ナンセンスです。

ポイント:一、二歳の幼児は、とにかく親に甘えてきます。こういう時に漢字を使って相手になってやるのです。子どもの寂しい気持ちをこれによって満足させてやるのです。